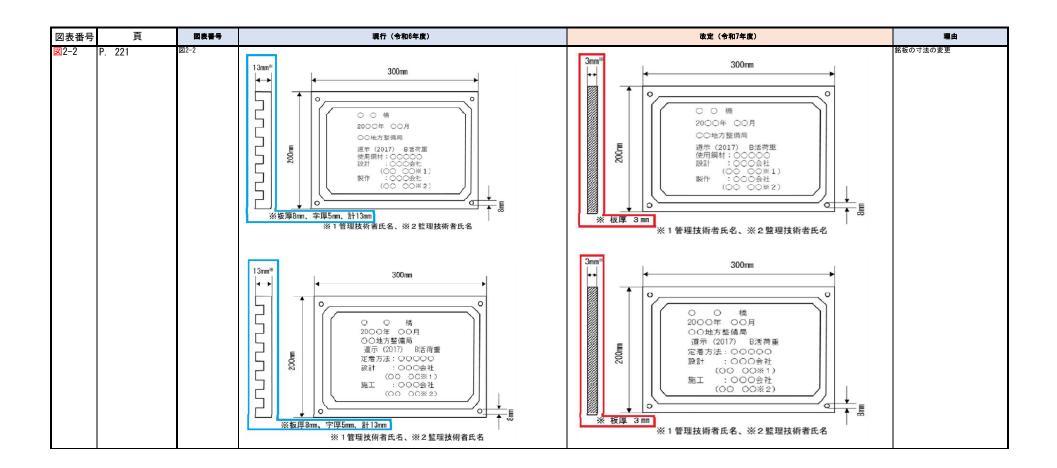
図表番号	頁	図表番号		現行(令	和6年度)				改定(令和)	7年度)		理由
•		表2-4 再生砕石の粒度	表2-2-4 再生砕石の粒度					:				
₹2-4	P. 173		粒度 範 (呼び ふるい目 の開き 55mm 通 37.5mm 通 31.5mm 算 28.5mm 目 分 113.2mm 平 13.2mm 平 13.2mm [注] 再生骨材の粒度 の見かけの骨材	名) 40~ O (R C - 40) 100 95~100 - 50~80 - 15~40 5~25 は、モルタル粒	100 95~100 - 55~85 - 15~45 5~30 などを含人だ高	100 95~100 60~90 20~50 10~36	通過當量百分平(%)	37.5mm 31.5mm 26.5mm 19mm	名) 40~0 (R C - 40) 100 95~100 - 50~80 - 15~40 5~25 は、モルタル粒	100 95~100 - 55~85 - 15~45 5~30 などを含む破荷	20~0 (RC-20) 100 95~100 60~90 20~50 10~35	諸基準類との整合
		表2-5 再生粒度調整砕石 の粒度	表 2- 粒 度 範 E (呼び名 ふるい目 の開き			25~0 (RM-25)		表 2-t 粒 度 範 囲 (呼び名) い目 の開き				
			53mm	100				53mm	100			
			37.5mm	95~100	100			37.5mm	95~100	100		
			通 通 31.5mm	-	95~100	100	通過	31.5mm	-	95~100	100	
5	P. 174		質 26.5mm	-	-	95~100	質	26.5mm	-	-	95~100	諸基準類との整合
			臣 12mm	60~90	60~90	_	量	19mm	60~90	60~90	-	
			分 13.2mm	-	-	55~85	分	13.2mm	-	-	55~85	
			率 4.75mm %	30~65	30~65	30~85	率	4.75mm	30~65	30~65	30~65	
			2.36mm	20~50	20~50	20~50	9	2.36mm	20~50	20~50	20~50	
			425μm	10~30	10~30	10~30		425μm	10~30	10~30	10~30	
			75μm [注] 再生骨材の粒度で の見かけの骨材粒		2〜10 ほどを含んだ破る		[注	75μm] 再生骨材の粒度に <mark>見掛け</mark> の骨材粒度を		2〜10 ごどを <mark>含む</mark> 破砕	2~10 されたままの	

図表番号	頁	図表番号	現行(令和6年度)	改定(令和7年度)	理由
表2-12	P. 176∼177	表2-12 アスリートー アスリート再 生骨材 の品質	表 2-12 アスファルトコンクリート再生骨材の品質 旧アスファルトの含有量 % 3.8以上 旧アスファルトの性状 計入度 1/10mm 20以上 信材の微粒分量 から 5以下 (注1) アスファルトロンクリート再生骨材はに含まれるアスファルトをHアスファルト、新たに用いる舗装用石油アスファルトを新アスファルトと称する。 (注2) アスファルトコンクリート再生骨材は、通常20~13mm、13~5mm、6~0mmの3種類の粒度や20~13mm、13~0mmの2種類の粒度にふるい分けられるが、本表に示される頻解は、13~0mmの2種類の数度にふるい分けられるが、本表に示される頻解は、13~0mmの2種類の数度に入るもい分けられている場合には、再生骨材の製造時における各種度区分の比率に応じて合成した試料で試験するが、別々に試験して合成比率に応じて計算により13~0mm相当分を求めてもよい。また、13~0mmあるいは13~5mm、5~0mm以外であるい分けられている場合には、あるい分け前の全試料から13~0mmをあるい取ってこれを対象に試験を行う。 (注4) アスファルトコンクリート再生骨材の12つファルト含有量及び75mmを通過する量は、アスファルトコンクリート再生骨材の乾燥質量をに対する自分率で表す。管理は関係域1178 は138 (骨材の微性分量が表表)によりまかる。 (注5) アスファルト混合物層の切削材は、その品質が本表に適合するものであれば再生加熱アスファルト混合物層の切削材は、その品質が本表に適合するものであれば再生加熱アスファルトコンクリート発生材を調整して使用することが望ましい。で他のアスファルトコンクリート発生材を調整して使用することが望ましい。 (注7) 旧アスファルトの性状は、針入度または、圧列係数のどちらかか基準を満足すればよい。	表 2-12 針入度を適用するアスファルトコンクリート再生骨材の品質 項目 目標値 旧アスファルトの含有量 % 3.8以上 旧アスファルトの針入度 (25℃)1/10mm 20以上 骨材の微粒分量 % 5以下 (注1) アスファルトコンクリート再生骨材中に含まれるアスファルトを旧アスファルト、新たに用いるアスファルトを新アスファルトと称する。 (22) アスファルトコンクリート再生骨材の旧アスファルトの含有量、針入度および骨材の微粒分量は、実際の製造に用いる13~0mmの粒度に適用する。なお、13mm以下が2種類に分級されている場合には、それぞれの種度区分を別々に試験して合成比率に応じて計算により13~0mm相当分を求めてもよい。 (注3) 旧アスファルトの含有量および骨材の微粒分量は、アスファルトコンクリート再生骨材の乾燥質量に対する百分率で表す。 (注4) 骨材の微粒分量は、「JIS & 1103:2014 骨材の微粒分量試験方法」により求める。 (注4) 骨材の微粒分量は、「JIS & 1103:2014 骨材の微粒分量は、原力により求める。 (注5) アスファルト混合物層の刻削材は、アスファルトコンクリート再生骨材の品質に適合するものであれば再生加熱アスファルトコンクリート発生材を調整して使用することが望ましい。	諸基準類との整合
表2-13	P. 新規(177)	表2-13 圧裂(系数 を適用す でルトコ ンク リート質 付 材の 品質		3	諸基準類との整合

図表番号	頁	図表番号			改定(令和7年度)								理由						
表2-15	P. 178	表2-15→6 舗装用石油アス	-		表 -2-15 鲁	浦装用石油ア	スファルト	の規格			_		表 2-16	舗装用石油	アスファルト	の規格			
		ファルトの規格	種類項目	40~60	60~80	80~100	100~120	120~150	150~200	200~300	瀬田	類 40~60	80~80	80~100	100~120	120~150	150~200	200~300	
			針入度(25℃)	40を超え	60を超え	80を超え	100を超え	120を超え		200を超え		60を超え	80を超え		120を超え	1	200を超え		
			1/10mm 軟化点	60以下 47.0~	80以下	100以下	120以下	150以下	200以下 30.0~	300以下	1/10mm 軟化点	60以下 47.0∼	80以下 44.0~	100以下 42.0∼	120以下 40.0~	150以下 38.0∼	200以下 30.0∼	300以下	
			**************************************	55.0	52.0	50.0	50.0	48.0	45.0	45.0	#X16.FR	55.0	52.0	50.0	50.0	48.0 48.0	45.0	45.0	
			伸度(15℃) cm	10以上	100以上	100以上	100UL	100以上	100以上	100以上	伸度(15℃ cm	10以上	100以上	100以上	100以上	100以上	100以上	100以上	
			トルエン 可溶分 %	1以0.08	99.0以上	99.0以上	4以0.08	99.0ULE	99.0以上	99.01X.E	トルエン 可溶分 %	99.0以上	99.0UL	99.0以上	99.0以上	99.0以上	99.0以上	99.0UL	
			引火点℃	280以上	260KL	260以上	260以上	240以上	240KL	210以上	引火点	260UL	260以上	260以上	260UL	250以上	250以上	250以上	諸基準類との整合
			薄膜加熱質量 変化率 %	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下	-	-	-	薄膜加熱質 変化率 %	- 1 0 6DF	0.6以下	0.6以下	0.6以下	-	-	-	商基学規との整合
			薄膜加熱針入度 残留率 %	58以上	55以上	50以上	50以上	-	-	-	薄膜加熱針7 残留率 %	5 R DI F	55以上	50以上	50以上	-	-	-	
			蒸発後の質量 変化率 %	-	-	-	-	0.5以下	1.0以下	1.0以下	蒸発後の質 変化率 %	_	-	-	-	0.5以下	1.0以下	1.0以下	
			蒸発後の 針入度比 %	110以下	110以下	110以下	110以下	-	-	-	蒸発後の針入度比の	6 110以下	110以下	110以下	110以下	-	-	-	
			密度 (15℃) s/cml	1.000以上	1.000以上	1.000以上	1.000以上	1.000以上	1.000以上	1.000以上	密度 (15℃ s/cd [注1]	1.000以上			1.000以上				
			[注] 各種	[注] 各種類とも120℃、150℃、180℃のそれぞれにおける動粘度を試験表に付記する。							[注1] 各種類とも120°C、150°C、180°Cのそれぞれにおける動粘度を試験表に付記する。 [注2] 舗装用の新アスファルトである120~150、150~200、200~300は,「JIS K 2207:2 006 石油アスファルト」とは引火点が異なる。								
表2-26	P. 191	表2-26→7 再生用添加剤の標 準的性状	プラント再生用		·2-26 再	手生用添加	剤の標準的	勺性状			プラント再生		表 ·2-2 <mark>7</mark>	再生用漆	加剤の標	準的性状			
				項目			標準的性状			項目				標準的性状					
			動粘	叓 (60℃)		mm²/S		80~1,0	000		動料	度 (60℃	2)	mmi/S		80~	~1,000		
			引 火)	点		°C		250以	L		引火	点		ಌ		25	0以上		
			薄膜加熱	後の粘度と	t	(60℃)		2以下			薄膜加	熱後の粘度	EH	(60℃)	2	以下		諸基準類との整合
			薄膜加熱的	質量変化率	Š	%		± 3以	为		薄膜加	熱質量変化	率	%		±	3以内		
			密度(15°C)		g/cm 報告			密 度 (15℃) g/cm²				報告						
			組成の	石油学会規	格JPI-5S	-70-10)		報告			組成	(石油学会	規格JPI-	5S-7 <mark>7</mark> -19)		報告		
			[注] 密度は、 ことが望		ァルトと	の分離な	どを防止っ	するため0.	.95g/cmlU	上とする		は、旧アス が望ましい。		との分離	などを防	止するた	め0.95g/	cml以上とす?	5



図表番号	頁	図表番号	現行(令和6年度)							改定(令和7年度)							
表2-10	P. 229	表2-10 (注 1)	表 -2-10 要求性能の確認方法							表 2-10 要求性能の確認方法							
1			項目		要求性能	試験方法	確認方法	94 SH 56	項	f	要求性能	試験方法	確認方法 試験条件	基準値			
			73.1	- 母材の 健全性	母材が健全であること	JIS G 3547の間接法 で使用する試験液 によるメッキ溶脱 後の母材鉄線の写 真撮影	メッキを剥いだ状態で	基準値 母材に傷が付 いていないこ と		母材の 健全性	母材が健全であ ること	JIS G 3547の間接法 で使用する試験液 によるメッキ溶脱 後の母材鉄線の写 真撮影	メッキを剝いだ状態で の母材鉄線の表面撮影	母材に傷が付			
				強度	洗掘時の破断抵迫 抗及びる屈を補にした を有すの一部の一部の一部の 本体機・要な に必要を に必要を に必要を に必要を に必要を もなり に必要を もなり を もなり に と を を は を は を は を は を は を は を は を は を は	引張試験 (JIS G 35471/C準拠)	-	引張強さ 290N/mml以上		強度	洗掘時びるする が振及すするする が展と が展と が展と がいるする がいるないる がいる がいるないる がいる がいる がいる がいる がいる がいる がいる が	- 引張試験 (IIS G 3547に準拠)	-	引無強さ 290M/mi以上			
			線材に要求さ れる性能	耐久性	淡水中での耐用 年数30年程度 を確保すること	腐食促進試験 (JIS G 0594に準拠)	塩化物イオン濃度 Oppn 試験時間 1,000時間	メッキ残存量 30 ₈ /m ² 以上	線材に要求さ れる性能	耐久性	淡水中での耐用 年数30年程度 を確保すること	腐食促進試験 (JIS G 0594に準拠)	塩化物イオン濃度Oppm 試験時間 1,000時間	メッキ残存量 30g/n ² 以上			
						線材摩耗試験	回転数 20,000回転					線材摩耗試験	回転数 20,000回転				
				均質性	性能を担保する 品質の均質性を 確保しているこ	鉄線籠型基準	「8. 線材の品質管理」に	基づくこと		均質性	性能を担保する 品質の均質性を 確保しているこ	鉄線龍型基準	「8.線材の品質管理」に	基づくこと			
				環境 適合性						環境 適合性	周辺環境に影響 を与える有害成 分を溶出しない	鉄線籠型基準「1.適用河川」に基づくこと					
			上記性能に加えて動材に要求される性能	摩擦抵抗 (短期性能 型)	作業中の安全の ために必要な滑 りにくさ有する こと	面的摩擦試験 または 線的摩擦試験	-	摩擦係数 0.90以上		摩擦抵抗 (短期性能 型)	作業中の安全の ために必要な滑 りにくさ有する	面的摩擦試験 または 線的摩擦試験	-	摩擦係数 0.90以上			
				摩擦抵抗 (長期性能 型)	供用後における 水辺の安全な利 用のために必要 な滑りにくさを 有すること	線材摩耗試験の 線的摩擦試験 または 面材摩耗試験の 面的摩擦試験	[線材摩耗試験の場合] 回転数2,500回転 [面材摩耗試験の場合] 回転数100回転	摩擦係数 0.90以上 (初期摩耗 後)	上記性能に加 えて蓋材に要 求される性能	摩擦抵抗 (長期性能 型)	供用後における 水辺の安全な利 用のために必要 な滑りにくさを		[線材摩耗試験の場合] 回転数2,500回転 [面材摩耗試験の場合] 回転数100回転	摩擦係数 0.80以上 (初期摩耗 後)			
			その後い 線材の8 [注2] メッキ針 能を満り	は、均質性の 品質管理試験 鉄線以外の線	に基づく公的機 D確保の観点から ((表 2-13)を 球材についても、i E 確認 した公的討	、鉄線籠型基準「8. 行うものとする。 鉄線籠型基準「7.:	ついては、1回の実施: . 線材の品質管理」にき 線材に要求される性能 ET明を事前に監督職員に	Bづき、定期的に □ に基づく要求性	その後 線材の [注2] メッキ 能を満	は、均質性の 品質管理試験 鉄線以外の線	D確保の観点から 剣(表 2-1 <mark>2</mark>)を 線材についても、 を 確認 した公的記	、鉄線籠型基準「8. 行うものとする。 鉄線籠型基準「7.:	 ついては、1回の実施で 線材の品質管理」に 	Bづき、定期的に に基づく要求性			
表2-21	P. 254	表2-21 鉄	表 2-21 鉄鋼スラグの品質規格														
		鋼スラグの品質規 格	材 料	名	事び名 表軸	吃密度 吸水率 (/cm²) (%)		水浸膨張比									
			クラッシャラ 製鋼スラク		css		50以下	2.0以下							削除		
			単粒度製鋼ス	ラグ	S S 2.4	.5以上 3.0以	下 30以下	2.0以下							1		
							ングした後の製鋼 法便覧 B014を参										

図表番号 頁 図表	5番号	現行(令和6年度)	改定(令和7年度)	理由
表2-22 P. 254 表2-22 スファルリート再:	レトコンク	田アスファルトの含有量 9% 3.8以上 1/10mm 20以上 日アスファルトの含有量 9% 3.8以上 日アスファルトの性状 針入度 1/10mm 20以上 日アスファルトの性状 4升入度 1.70以下 骨材の微粒分量 5以下 1.70以下 9% 5以下 1.70以下 1.7		諸基準類との整合(削除)
図6-2 P. 555 図6-2		(標示板) (取付け図) (取付的図) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可) (取付的可)	(標示板) (取付け図) (現付け図) (現付け図) (取付け図) (取付け図) (取付け図) (取付け図) (取付け図) (の ○ トンネル ② ○ 月 ○ 地方 繁 偏 局 議長 の m ○ の 高 ○ の ② ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	実態を踏まえた規定の変更